

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 31 年 5 月 1 日現在

機関番号：14101

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2016～2018

課題番号：16K16761

研究課題名(和文)戦前期ドイツにおける日本プロレタリア文学の翻訳と受容に関する研究

研究課題名(英文) Study on the translation and the acceptance of Japanese proletarian literature in prewar Germany

研究代表者

和田 崇 (WADA, Takashi)

三重大学・教育学部・准教授

研究者番号：10759624

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,500,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、左翼系メディアを中心とした戦前期ドイツの15誌(紙)を調査し、日本プロレタリア文学関連記事を抽出して目録を作成した。本研究で得られた資料により、『太陽のない街』と『一九二八年三月十五日』という2冊の図書が現地で受容された状況や、ともにナチスの焚書にもなって禁止図書に指定された事実を確認し、さらに、左翼系メディアを通じた日本とドイツ間の文化交流の一端を示すことができた。また、戦前期にドイツ語に翻訳された日本のプロレタリア作品の中には、無名詩人の小林園夫の詩が複数あることや、政治的背景により翻訳される可能性の低かった葉山嘉樹の「セメント樽の中の手紙」も含まれていることが判明した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の学術的意義として、まず、書誌学的成果が挙げられる。日本近代文学のドイツ語訳については、(Stalphe 2009)で網羅的に整理されているものの、雑誌や新聞の掲載分については補足すべきものが多い。本研究によって、新たに詩4編と小説10編を発掘した。また、これまでのプロレタリア文学研究においては、日本の運動体が海外理論をどのように受容したのかという一方向的な視点で考察されることが多かったが、本研究では、国家間の双方向性をともなった視点を提供することができた。社会的意義としては、民間有志の国際交流により、あらゆる芸術作品が異国へと越境する可能性を見出せたことが挙げられる。

研究成果の概要(英文)：In this study, I researched 15 prewar German magazines and newspapers, mainly left-wing media, and extracted articles related to Japanese proletarian literature to create an index. Based on the data obtained in this study, I confirmed that 2 books, "The Sunless Street" and "The 15th of March, 1928" were highly valued in Germany but both were burned under the Nazi regime. In addition, I showed a part of cultural exchange through left-wing media between Japan and Germany. It was also revealed that among the Japanese proletarian works translated into German in the prewar period, there were poems by Sonoo KOBAYASHI who was nameless poet and "Letter in a Cement Barrel" by Yoshiki HAYAMA.

研究分野：日本近代文学

キーワード：比較文学 翻訳文学 国際交流 プロレタリア文化 マルクス主義芸術 社会主義芸術 ドイツにおける日本文学受容 西洋圏における日本文学受容

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

大正末期から昭和初期にかけて隆盛した日本のプロレタリア文学については、近年、国際的な関心も高まっており、報告者が研究を続けてきたプロレタリア作家の徳永直に限っても、諸外国でさまざまな研究成果が報告されている。たとえば、徳永のデビュー作『太陽のない街』の冒頭部については、近代を象徴する都市と伝統的な天皇制との交錯を読み取った (Harootyan 2000) や、権力が群衆に可視化される公共空間が描かれていると指摘した (Bowen-Struyk 2011) の研究があり、ほかにも、徳永の文学理論が植民地台湾の日本語作家・楊逵に与えた影響を分析した (白 2013) の研究などがある。また、フランスでは 2011 年に Yago 出版社より『太陽のない街』のフランス語訳が出版された。

報告者は、こうした研究状況に呼应すべく、研究開始当初までに国際性を意識した徳永直の作品研究を行ってきた。フランス語版『太陽のない街』の序文を翻訳 (和田 2012) し、『太陽のない街』におけるロシア文学の影響関係を考察 (和田 2013a) また、同作品のドイツ語版が 1930 年に刊行され、スペインやロシアなどヨーロッパ各国で重訳された経緯を解明 (和田 2013b) した。特に (和田 2013b) の研究では、プロレタリア文学だけでなく日本近代文学研究全般に関わる問題として、戦前期の日本文学の国際的な位置づけに関する有意義な成果を得ることができた。

しかし、報告者がそれまでの研究で用いた資料は、日本国内で入手できたものだけであり、また、『太陽のない街』のみを対象に据えたことから、ドイツ語の一次資料を用いた研究手法と成果のモデルケースを提示したに過ぎない面もあった。また、ドイツへ渡って活動した日本の左翼知識人については、(川上・加藤 1995) や (加藤 2008) (和田他 2006) などの優れた成果があるものの、日本のプロレタリア文学がドイツでどの程度翻訳され、どのように評価されたのかといった具体的な状況については検討されてこなかった。

### 2. 研究の目的

本研究では、左翼系の雑誌や新聞を中心に、ドイツ語の一次資料を国内外で調査し、日本のプロレタリア文学がドイツ語で翻訳・紹介された事例を収集して整理することを第一の目的とする。これにより、日本文学のドイツ語訳文献を網羅した (Stalph 他 2009) を補遺する書誌学的成果を収める。

次に、収集した資料の中から重要性の高い翻訳作品や論文を分析し、現地での評価や翻訳の特徴を考察する。これによって、社会主義思想のネットワークを通じた日本とドイツの交流の一端や、ドイツにおける日本イメージの形成や変化にプロレタリア文学がどのように関与したのかを明らかにする。

### 3. 研究の方法

はじめに、『戦旗』や『文芸戦線』といった戦前期日本のプロレタリア文化運動関連メディアの復刻版、および前記 (川上・加藤 1995) をはじめとする日本の先行研究や (Murray 1990) といった海外の先行研究を手掛かりに、日本のプロレタリア文学作品の翻訳や紹介が掲載されている可能性がある戦前期ドイツの左翼系メディアを選定した。そして、国内外の書誌目録やデータベースを用いてそれらの文献の所蔵館を検索し、調査を実施した。

調査対象とした資料 (所蔵館・調査実施場所) は以下のとおりである。なお、必要に応じて、いわゆる左翼系メディアだけでなく、一般的な文学雑誌も調査対象とした。

- ・ *Arbeiter-Bühne*, 1926-1930. (早稲田大学演劇博物館千田文庫)
- ・ *Arbeiterbühne und Film*, 1930-1931. (復刻版: 三重大学教育学部和田崇研究室)
- ・ *Arbeiter Illustrierte Zeitung*, 1925-1936. (マイクロフィルム: 中央大学中央図書館)
- ・ *Berlin am Morgen*, 1929-1933. (マイクロフィルム: Staatsbibliothek zu Berlin, Westhafen)
- ・ *Die Kommunistische Internationale*, 1919-1941. (復刻版: 京都大学人文科学研究所図書室)
- ・ *Internationale Literatur*, 1931-1945. (慶應義塾大学三田メディアセンター / マイクロフィルム: 中央大学中央図書館)
- ・ *Internationale Presse-Korrespondenz*, 1921-1933. (復刻版: 京都大学文学研究科図書館)
- ・ *Die Linkskurve*, 1929-1932. (復刻版: 三重大学教育学部和田崇研究室)
- ・ *Die Literarische Welt*, 1925-1933. (復刻版: 立命館大学図書館)
- ・ *Die Literatur*, 1923-1942. (Staatsbibliothek zu Berlin, Haus Unter den Linden)
- ・ *Literatur der Weltrevolution*, 1931-1931. (三重大学教育学部和田崇研究室 / 京都大学文学研究科図書館)
- ・ *Revolutionäres Asien*, 1932-1932. (マイクロフィルム: Bundesarchiv)
- ・ *Die Rote Fahne*, 1918-1938. (法政大学大原社会問題研究所、マイクロフィルム: 愛知大学豊橋図書館)
- ・ *Die Welt am Abend*, 1922-1933. (マイクロフィルム: Staatsbibliothek zu Berlin, Westhafen)
- ・ *Das Wort*, 1936-1939. (復刻版: 三重大学附属図書館)

研究期間の3年間を通じて、これらの資料を逐次調査し、日本のプロレタリア文学の翻訳や紹介がなされた記事を収集した。調査対象としたこれら 15 種類のドイツの雑誌・新聞の中から得た具体的な成果については、次項に報告する。

次に、収集した文献のうち、報告者が資料的価値の高いと判断した論文については和訳し、内容を分析した。分析する際には、『プロレタリア文化運動関連メディアの復刻版や、『資料世界プロレタリア文化運動』全6巻(三一書房、1972-1975)といった同時代の国際的な革命文学の動向がわかる文献を参照し、発見した資料を意義づけるための考察をした。

#### 4. 研究成果

##### (1)新資料の発掘

前記15種類のドイツの雑誌・新聞を調査し、まずは「日本」全般に関する記事を探索した。その結果、約200件の日本関連記事が見つかった。ただし、これらの記事の大多数は、日本の満州侵攻など時事問題に関するものである。左派系ドイツ国民の日本への関心をうかがわせる資料としては利用できるが、本研究の成果としては雑多なため、さらに、文学(文化)関連記事に絞り、60件の記事を抽出した。

この抽出した記事の成果公表について、データ量が多いため、本報告では【表1】のとおり詩4件と小説11件のみを抜粋するにとどめる。記事の全体については、『戦前期ドイツの雑誌・新聞における日本プロレタリア文学関連記事目録』(以下、『目録』と略す)と題して、勤務校のサーバーを利用した報告者のWebページにアップロードし、その直リンクをresearchmapに掲載することで、広く一般に公開した。

タイトル	筆者	誌(紙)名	巻	号	発行			種類	備考
					年	月	日		
DAS VERBOTENE LIED	v. S. Kobayashi / Aus dem Japanischen von Alfe Raddatz	Die Rote Fahne	13	40	1930	2	16	詩	千田是也・アルフ・ラダッツ(訳) / 小林園夫「出発」・浅野純一「五月一日の朝の工場」(『戦旗』1929年6月号)の合併詩
DER MANN MIT DER KRÜCKE	KAE MORYAMA von Ito	DIE LINKS-KURVE	2	4	1930	4	-	詩	千田是也(訳) / 森山啓「松葉杖の廃兵」(『プロレタリア芸術』1928年3月号)
Die Versammlung fliegt auf	N. TOKUNAGA	Die Rote Fahne	13	230	1930	10	2	小説	千田是也・アルフ・ラダッツ(訳(推定)) / 『太陽のない街』の抄訳
DIE FAHNEN	N. TOKUNAGA	DIE LINKS-KURVE	2	10	1930	10	-	小説	千田是也・アルフ・ラダッツ(訳(推定)) / 『太陽のない街』の抄訳
Das Flugblatt	N. Tokunaga	Berlin am Morgen			1930	11	11	小説	千田是也・アルフ・ラダッツ(訳(推定)) / 『太陽のない街』の抄訳
Die Straße ohne Sonne	N. Tokunaga(*初回のみTokunaga)	Die Rote Fahne	14	2	1931	1	3	小説	連載(~3月17日)
Brief in Zement	Yoshiki Hayama Aus dem Japanischen von Ito Raddatz.	Berlin am Morgen			1931	2	6	小説	千田是也・アルフ・ラダッツ(訳) / 葉山嘉樹「セメント樽の中の手紙」
Takaqi streikt	-	Berlin am Morgen			1931	7	23	小説	出典調査中
Der Hochofen	von S. Kobayashi von Ito = Raddatz	Die Rote Fahne	14	79	1931	4	3	詩	千田是也・アルフ・ラダッツ(訳) / 小林園夫「プロレタリアの詩」(『プロレタリア芸術』1928年3月号)の意訳
Der Mensch, der nicht applaudierte	Fudsimori Seikiti / Aus dem Japanischen von B.	Literatur der Weltrevolution	-	4	1931	-	-	小説	藤森成吉「拍手しない男」(『文芸戦線』)
Dichtung: Im Sturm von Peping	MORIJAMA	Revolutionäres Asien	1	1	1932	3	-	詩	森山啓「北平の風の中で」(『ナップ』1931年10月号)の意訳
monteurs : aus dem japanischen	kataoka teppei vom M. Sch.	INTERNATIONALE LITERATUR	2	3	1932	-	-	小説	片岡鉄兵「通信工手」(『戦旗』1930年5月号)
Der Kleinkapitalist	Tokunaga Naoshi / Aus den Japanischen von R. K.	INTERNATIONALE LITERATUR	2	1	1932	-	-	小説	ロマン・キムのロシア語訳からの重訳 / 徳永直「小資本家」
Drei-Tage-Soldaten	Von EISHI TANAKA von Grete Schwarz	INTERNATIONALE LITERATUR	4	3	1934	-	-	小説	1934年5-6月号(推定) / 英語(アメリカ版)から重訳 / 田中英士「三日兵」(『プロレタリア文学』1933年10月号)
Der Blinde	Von Simagi Kensaku Aus dem Japanischen von Gorskaja. Aus dem Russischen von Lotte Schwartz	INTERNATIONALE LITERATUR	5	5	1935	5	-	小説	日本語とロシア語から翻訳 / 島木健作「盲目」(『中央公論』1934年7月号)

表1: 『戦前期ドイツの雑誌・新聞における日本プロレタリア文学関連記事目録』の抜粋

『目録』の作成により、これまで詳らかではなかった日本のプロレタリア文学作品のドイツにおける翻訳状況が概観できるようになった。特に、雑誌や新聞に掲載された情報は、同時代においてもほとんど日本で知られることはなく、今回発掘された詩と小説(ただし、小説のうち4件は『太陽のない街』の抄訳および連載)は、(Stalpl 他 2009)でも藤森成吉「拍手しない男」が記されているのみで、それ以外は記載されていない。また、報告者が過去に論文で取り上げたことのある *Die Straße ohne Sonne: ein japanischer Arbeiter-Roman*, N. Tokunaga, Internationaler Arbeiter-Verlag, 1930. (徳永直『太陽のない街』)や *Der 15. März 1928: eine japanische Arbeiter-Erzählung*, Takisi Kobayashi, Mopr-Verlag, 1931. (小林多喜二『一九

二八年三月十五日』)については、単行本ということもあり、その存在は広く知れ渡っていたが、本研究により書評などの関連資料が多く発掘され、それらが現地でどのように受容されたのかを知ることができた。

## (2)資料の位置づけ

『太陽のない街』と『一九二八年三月十五日』

徳永直『太陽のない街』と小林多喜二『一九二八年三月十五日』のドイツ語訳については、前述のとおり報告者は過去の論文ですすでに取り上げたことがあったが、本研究によってさらに受容状況が立体的に浮かび上がった。たとえば、前者は図書の刊行だけでなく、ドイツ共産党の機関紙『ローテ・ファーン』に連載もされ、その連載予告として一頁大の広告が出されたという勝本清一郎の証言(「『太陽のない街』のドイツ訳について」、『ナツ』1931年3月号)があったが、複数館が所蔵する『ローテ・ファーン』マイクロフィルム版の調査では当該記事を発見することができなかった。ところが、同版の欠号の原紙を法政大学大原社会問題研究所で発見し、実際に勝本の証言どおり一頁大の広告であることが確認され、当時のドイツでの反響の大きさが明らかとなった。後者に関しては、48頁の冊子体ということもあって、書評の数は前者に比べて少なく、それぞれ言及程度のものが多かった。しかし、翻訳者は先行研究で指摘された国崎定洞ではなく千田是也とトルーデ・エッセンバッハとの共訳であったこと、骨子をそのままにして要約的に翻訳した訳文の特徴が見られること、西洋のオリエンタルな眼差しを払拭する作品であるという『太陽のない街』と似たような評価がなされたこと、ドイツ2大都市のケムニッツとシュトゥットガルトで没収・禁止にあったことなどが判明した。

没収・禁止に関連して、1933年5月10日に学生たちが2万5千冊を超える「非ドイツ的な」本を燃やしてクライマックスをむかえるナチスの焚書では、その対象に徳永直の『太陽のない街』も含まれていた。その事実を示すように、*Liste des schädlichen und unerwünschten Schrifttums* (=有害で好ましくない著作リスト)、1935.には、小林と徳永の名が記されている。ちなみに、小林の項目には『一九二八年三月十五日』に加えて*Die Krabbenfischer* (=蟹工船)も記されており、同作品の翻訳は国崎によって進められていたが、実際には刊行されていない。また、徳永の禁止対象が*Sämtliche Schriften* (=全著作)と記されているものの、これも誤りで、実際には『太陽のない街』しか刊行されておらず、当局が思わず複数の作品が出版されていると錯覚するほど、徳永の名が当時のドイツに知れ渡っていたことが窺える。

## 日独プロレタリア文学の往来

本研究で得られた資料から、日本とドイツのプロレタリア(革命)文学の国際的な交流状況も明らかとなった。日本のプロレタリア文学運動が本格的に国際的な認知を得るのは、1930年11月6日から15日にかけてウクライナ共和国のハリコフで行われた第2回革命作家国際会議(通称「ハリコフ会議」)以降のことである。しかし、本研究では、日本で発行された『戦旗』『国際文化』とドイツで発行された*Die Links-kurve*の両誌における掲載記事を比較することで、それ以前から両国の左派系文化運動が接点をもったことを明らかにできた。

両国交流の起源は、ヨハネス・R・ベッヒャーの訴訟事件に遡る。ベッヒャーは、1925年8月に国家反逆予備罪などの容疑で逮捕され、その後、27年10月に起訴が正式に決まり、2度にわたる公判延期の末に、28年8月25日付で訴訟停止が決定した。この間、マクシム・ゴリキーを筆頭に、ロマン・ロランやアンリ・バルビュス、ソヴィエトやプラハの作家たちや、アプトン・シンクレアなど、海外の作家たちからベッヒャー起訴に対する抗議の声が寄せられていた。この状況は、当時ベルリンに滞在していた千田是也によって日本にも紹介され、報告を受けた日本のプロレタリア文化団体「ナツ」は、「ヨハネス・R・ベツヒエルに関するヒンデンブルグ共和国ライプチヒ連邦裁判所への抗議書」をドイツへ送った。

つづいて、東大新人会の辻恒彦と川口浩が、日本におけるドイツ革命文学の理論や作品紹介に寄与した。辻は、ドイツ人が経営する商社に勤めるかたわら、無店舗でドイツ語の左翼的な文献、とりわけ文芸関係の書籍の輸入を行い、若い左翼知識人にドイツの左翼文化を紹介した。川口は、その辻などを経由して得たドイツ語文献を翻訳し、特に、後に日本文学にも定着する報告文学(ルポルタージュ)形式のいち早い紹介者となった。

1930年前後にドイツ・ベルリンに滞在していた千田是也、勝本清一郎、藤森成吉の3人は、現地のドイツ語雑誌で日本のプロレタリア文化運動の現状を紹介することに寄与した。ただし、当時の日本のプロレタリア文化運動は、支持政党の違いから『戦旗』(ナツ派)と『文芸戦線』(労農派)の2派閥に分裂しており、3者の論考では、彼らが所属する前者の立場から後者の勢力を社会民主主義者として排撃する論調が共通していた。

## 無名詩人の作品と「セメント樽の中の手紙」の翻訳

本研究の最も大きな成果は、前項「新資料の発掘」で述べたとおり、これまで翻訳された事実が知られていなかった日本のプロレタリア文学作品が見つかったことである。

注目すべきは、小林園夫の詩が、管見のかぎり『ローテ・ファーン』紙上で2度も翻訳されたことである。プロレタリア詩といえば、森山啓や壺井繁治、小熊秀雄など、後世に名を残す詩人も多いが、小林に関しては(山岸1971)で消息が明らかになるまで本名さえも公に知られておらず、しかし彼の作品はプロレタリア詩の佳作として、現在まで数多くのアンソロジーに

収録されてきた。そんな無名詩人である小林の詩が、多くのプロレタリア詩人の作品の中から選ばれ、ドイツ語に翻訳されていたのである。

もう一つ注目すべき点は、葉山嘉樹の短編小説「セメント樽の中の手紙」が戦前にドイツ語で翻訳されていたことである。これまでは(Humbert 1965)が最も早い翻訳として(Stalph 他 2009)に記載されていたが、本研究により、左派系大衆新聞 *Berlin am Morgen* 1931年2月6日付の紙面に掲載されているのが明らかとなった。しかも翻訳は、『太陽のない街』のドイツ語訳や、如上の小林園夫の詩と同じく千田是也とアルフ・ラダッツの共訳である。前述したように、当時の日本プロレタリア文化運動は、組織として分裂しており、作者の葉山は労農派に属し、翻訳者である千田とは敵対関係にあった。そのため、日本においてナップの雑誌に葉山の作品を掲載することは、1931年の時点ではありえないことであった。ところが、ドイツではそれが可能だったのである。戦後に(勝本 1962)は、ナップ派では統一戦線を提唱しながら、一方で同時に文戦派を攻撃しており、本当は労農派の創作能力、特に葉山嘉樹たちを高く評価していたものの、当時の情勢がそれを許さなかったことを回想している。現段階では仮説の域を出ないが、革命芸術運動の国際ネットワークの渦中にいた千田や勝本は、日本のプロレタリア文化運動における作品の批評態度に対して違和感を抱き、葉山の秀作を訳出するに至った可能性がある。

### (3)今後の課題

以上のとおり、本研究では、戦前期ドイツにおける日本プロレタリア文学の翻訳や受容状況を調査することによって、プロレタリア(革命)文学を通じた日独の左派系文化団体の交流や、現地で日本のプロレタリア文学作品が翻訳された意義を明らかにすることができた。しかし、研究開始当初は、訳文の分析を通じて翻訳の特徴を考察したり、ドイツにおける日本イメージの形成にプロレタリア文学がどのように関与したのかも追究することを目標に掲げていたが、それらは十分に達成されたとは言い難い。また、日本とドイツの関係だけでなく、両国の評論でしばしば言及されるアメリカの革命文学運動とのつながりなど、まだまだ探究すべき課題は多い。本研究で得た資源を生かして、今後も当該分野の研究発展に貢献したい。

### <参考文献>

- Harry D. Harootunian, *Overcome by modernity : history, culture, and community in interwar Japan*, Princeton University Press, 2000.
- Heather Bowen-Struyk, "Streets of Promise, Streets of Sorrow: Kobayashi Takiji and the Proletarian Movement", *Japanese Studies*, Vol.31 No.3, 2011.
- 白春燕、論楊達對 1930 年代日本文藝大衆化論述的吸收與轉化、『閱讀楊達』、秀威資訊、2013
- 和田崇[訳]、エヴリン・ルシーニユ = オドリ「徳永直と『太陽のない街』」、『徳永直の会報』、60号、2012
- 和田崇、『太陽のない街』の翻訳と伝播 “Die Straße ohne Sonne” (独訳)を中心に、『日本近代文学』、88集、2013b
- 和田崇、戦闘的なヒロインたち 『太陽のない街』におけるロシア小説の受容、『日本文学』、62巻2号、2013b
- 川上武・加藤哲郎、『人間 国崎定洞』、勁草書房、1995
- 加藤哲郎、『ワイマール期ベルリンの日本人』、岩波書店、2008
- 和田博文他、『言語都市・ベルリン』、藤原書店、2006
- Jürgen Stalph 他, *Moderne japanische Literatur in deutscher Übersetzung : eine Bibliographie der Jahre 1868-1994*, Iudicium, 2009.
- Bruce Murray, *Film and the German Left in the Weimar Republic: From Caligari to Kuhle Wampe*, University of Texas Press, 1990.
- 山岸一章、詩の中のあいつ、『民主文学』、62号(通巻112号)、1971
- D Monique Humbert, "Der Brief im Zementfass", *Nippon, Diogenes*, 1965
- 勝本清一郎、プロレタリア文学と私、伊藤整ほか編『鑑賞と研究 = 現代日本文学講座/小説6』、三省堂、1962

### 5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計 3件)

和田 崇、純粹小説論の裏側で 実録文学論との共時性をめぐり一考察、『横光利一研究』、査読有、16号、2018、pp.8-24

和田 崇、日独プロレタリア文学の往来 雑誌 "Die Links-kurve" を中心に、『立命館文学』、査読無、652号、2017、pp.1228-1241

<http://www.ritsumei.ac.jp/acd/cg/lt/rb/652/652PDF/Wada.pdf>

和田 崇、熊本が生んだ二人の世界的作家 国民文学とプロレタリア文学、『時空を超えて：徳永直没後六〇年記念講演会報告書』、査読無、2018、pp.32-40

[学会発表](計 4件)

Wada, Takashi, "Doublethink" in *Seisan-Bungaku Theory, Tenko*; in *Trans-war Japan*:

Politics, Culture, History. An international workshop, Held at the University of Leeds, 招待発表、2017

和田 崇、純粋小説論の裏側で、横光利一文学会第 17 回研究集会、於・同志社女子大学今出川キャンパス、招待発表、2017

和田 崇、熊本が生んだ 2 人の世界的作家 国民文学とプロレタリア文学、徳永直没後 60 周年記念講演会、於・くまもと県民交流館パレア、招待講演、2018

和田 崇、ドイツにおける日本プロレタリア文学の翻訳、日本・ルーマニア・ドイツ・中国・ソ連における社会主義と文化交流のネットワーク：文学・舞台演劇・映画、於・京都大学、招待発表・国際シンポジウム、2018

〔その他〕

ホームページ等

戦前期ドイツの雑誌・新聞における日本プロレタリア文学関連記事目録

[http://www.cc.mie-u.ac.jp/~wadataka/IndexA\\_1ed.pdf](http://www.cc.mie-u.ac.jp/~wadataka/IndexA_1ed.pdf)

6 . 研究組織

(2)研究協力者

研究協力者氏名：ダスティク = バラン アン

ローマ字氏名：( DASTIG-BALLAND, Anne )

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。